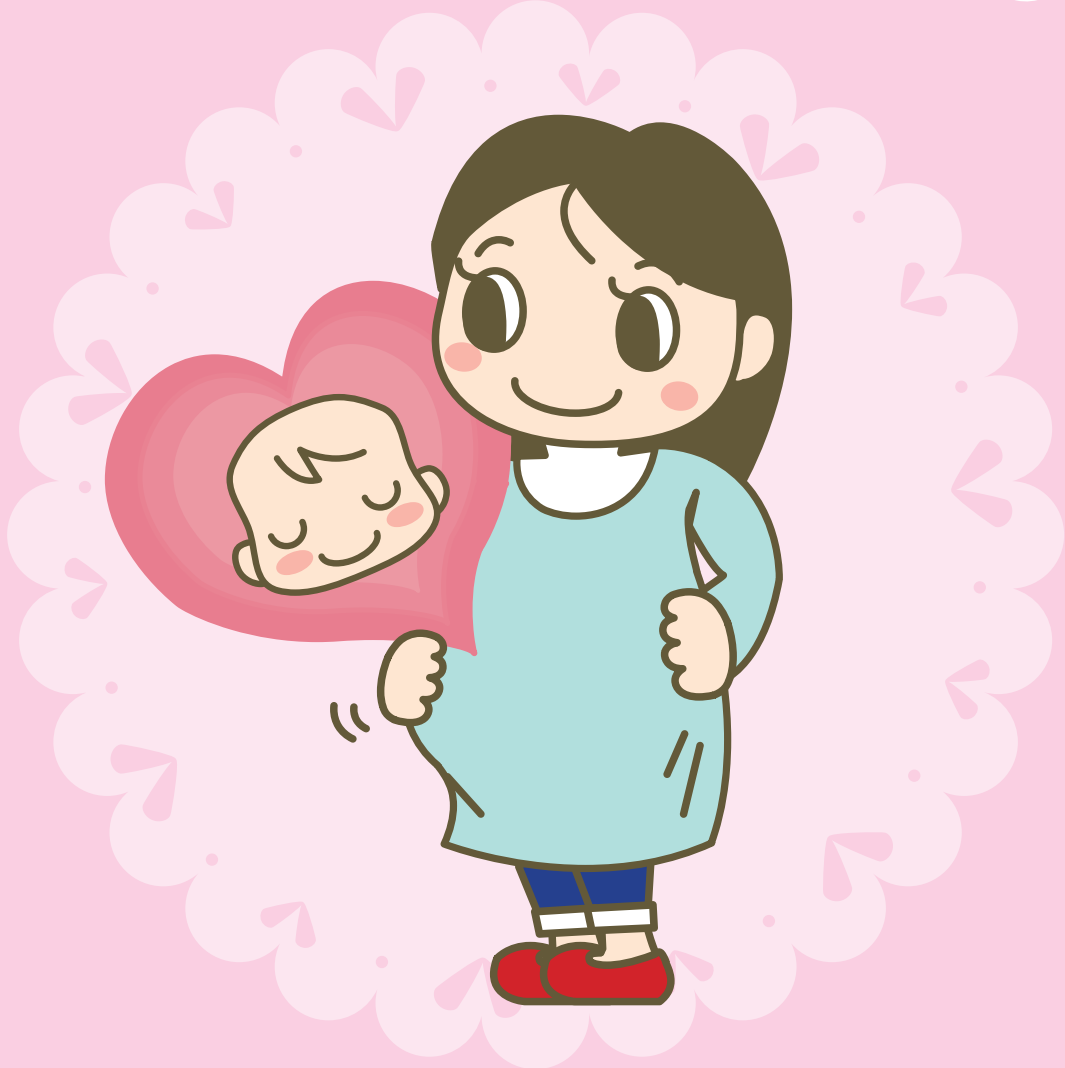


マイナス1歳からはじめる 丈夫な歯育て



生涯にわたりなんでもおいしく食べ、健康に過ごすためには健康な歯やお口の機能の育成が大切です。そして「丈夫な歯やお口の機能」・「健康な心身」の育成は妊娠したときから始まります。妊産婦期に歯科保健指導を受け、きちんと口腔ケアを実践した母親から生まれた子どものお口は健康であったという調査結果もあります。この機会に正しい知識を身につけ、健康な子どもを育てましょう。

山梨県 山梨県歯科医師会

〒400-0015 甲府市大手1丁目4番1号
☎055-252-6481(代)

山梨県歯科医師会

検索 

妊娠期

妊娠中のママは、ホルモンの変化などにより体調や身体に大きな変化が現れます。そのために、マイナートラブル(つわり・めまい・腹痛・不安…大事に至らない不快症)が起こってきます。

お口の中の衛生状態も悪化しやすく、むし歯の増加や歯肉炎が起きやすくなります。また、妊娠期のお口の状態がこれから生まれる子どもの歯に影響します。



むし歯

つわりや間食の増加のためにお口の掃除が不十分になりがちであったり、ホルモンの変化によって唾液の性状が変わりむし歯になりやすい状態になります。

歯周病


つわりなどで歯磨きを十分に行えなかったり、ホルモンの変化により炎症症状がより強く現れるため歯周病が進行しやすい状態になります。

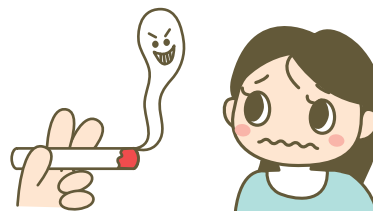


(健康な歯肉)



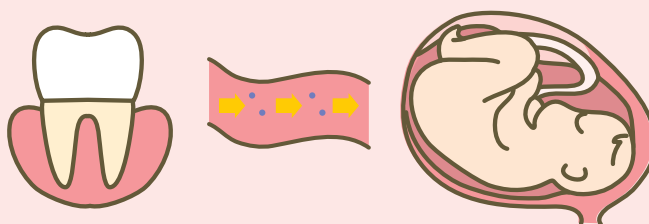
(歯周病の初期)

 喫煙は歯周病の原因になります。タバコを吸うと、歯と骨をつなぐ細胞が傷つき、歯を支える骨の破壊も進みます。血の巡りが悪くなり、歯がぐらつくようになって歯周病が進んでいきます。



歯周病は早産や低出生体重児出産の危険性を高めます

歯周病の妊婦さんは、そうでない妊婦さんと比べ約5倍も早産になりやすいという調査結果がでています。また、海外のデータでも歯周病が進んだ妊婦さんは、早産・低出生体重児出産の危険性が7倍にも高まるとの報告もあります。

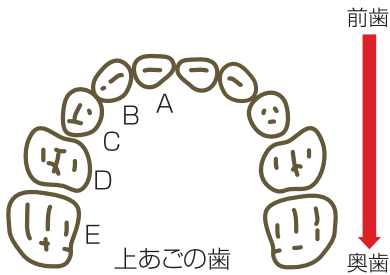


妊娠中の食事

必要な栄養が不足しないよう食事は規則正しくバランスよく取るように心がけましょう。

乳歯は妊娠7週目頃から、永久歯は妊娠4ヶ月頃から作られ始めます。歯の形成には、タンパク質・カルシウム・リン・ビタミンA、C、Dが必要です。

乳歯の出来る時期 妊娠初期から作られています!



歯種	歯の芽の出来る時期	歯が硬くなる時期
乳中切歯(A)	妊娠7週	妊娠4~4.5ヶ月
乳側切歯(B)	妊娠7週	妊娠4.5ヶ月
乳犬歯(C)	妊娠7.5週	妊娠5ヶ月
第1乳臼歯(D)	妊娠8週	妊娠5ヶ月
第2乳臼歯(E)	妊娠10週	妊娠6ヶ月

★下の歯も上の対応する歯とほぼ同じ時期に出来ます。



妊娠中のブラッシングの注意点

- 1 前傾姿勢で、小さな歯ブラシで磨いてみましょう
- 2 歯ブラシを小さく小刻みに動かします
- 3 ブクブクうがいを1日に何回もしてください
(妊娠中は、お口の中が酸性にかたむきやすいので)
- 4 食後にキシリトール入りガムを噛んでみる
- 5 お気に入りの味の歯磨き粉や洗口剤(マウスリンス)を使ってみる
- 6 気分が悪い時は無理しないで、調子が良くなったら磨きましょう

キシリトールの効果が期待できるお菓子は「ガム」か「タブレット」に限られ、糖質が0gであることと、糖質中におけるキシリトールの割合が50%を超えていることを確認してください。



歯科治療・歯科健診

歯の治療は、母体とも一番安定している中期(妊娠5ヶ月~7ヶ月)に処置をすると良いでしょう。前期、後期に治療が必要な時は歯科医師に相談してください。

母子健康手帳が交付されたら1度、歯科健診を受けた方が良いでしょう。もともと歯や歯ぐきに気になることがある人は定期的に歯科健診に行く事をおすすめします。

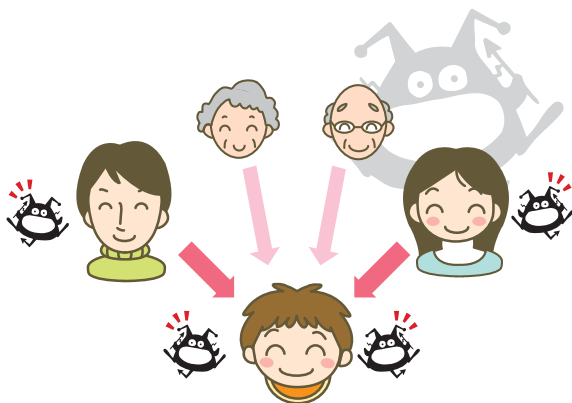


身近な人からうつるむし歯菌

むし歯菌は、おもに家族から「だ液」を介して感染します。

生まれたばかりの赤ちゃんにはむし歯菌(ミュータンス菌)はいません。感染源は、身近なお母さんが70%と多いため「母子感染」ともいわれていますが、お父さんを含め同居している家族も要注意です。感染を防ぐために「食べ物の口移し、スプーンやはしの共有、回し飲み」などは控えましょう。2~3歳までに感染しなければ、将来むし歯になる可能性を大きく減らせます。家族も赤ちゃんへの感染を防ぐために、歯のケア(むし歯治療、むし歯予防)を心がけましょう。

むし歯菌の家族感染



お子さんにむし歯菌を感染させないヒケツ

- ① お母さんのむし歯の治療をしましょう。
お子さんが生後1歳半になる前にむし歯の治療を終わらせましょう。
- ② 歯のクリーニングをしましょう。
定期的なクリーニングは、口の中を汚れにくくし、むし歯菌を減らす効果があります。これは、お父さんなどお子さんの周りにいる人にも言えます。
- ③ 食べ物の口移し、スプーンやはしの共有、回し飲みなどはなるべく控えましょう。

歯みがき大好きっ子をつくる指先みがき

まだ歯の生えていない赤ちゃんの歯ぐきを指でかくくこすってみがいてあげましょう!

このようにしますと

① お子さんがお口の中をさわられることに慣れる。

歯を磨かれることに早く慣れる。

② お母さんがお口をさわること
に早く慣れる。

歯を磨いてあげることに
早く慣れる。



乳児期

5～6ヶ月ころ

顎(あご)の成長により歯の萌出(ほうしゅつ)前に哺乳から離乳への準備をします。

唇で取り込む捕食の仕方を少しずつ覚えていきます。

スプーンは下唇の上に乗せて、上唇でスプーン上の食べ物を取り込むのを待ってから、スプーンを引き抜くようにすることが大切です。食べ物を口もとまで運んで、後は自分の力で取り込ませます。



かたまりのないなめらかなトロトロ状から、発達に応じて水分をとばし、ベタベタ状にしていきます。

食後、おちついたら、お口の中をガーゼなどを使ってきれいにしましょう。



7～8ヶ月



つまむと簡単につぶれるような軟らかさ(絹ごし豆腐・プリンなど)に調理します。飲み込みやすいよう、トロミづけをすることも必要です。



下の前歯が萌出てきます。

●授乳後すぐに寝てしまうと、歯の表面におっぱいがずっと残っていて、むし歯の温床となってしまいます。これを防ぐためには、歯が生えてからは夜間の授乳後、白湯を飲ませるか、お口の清掃が必要となります。特に奥の歯ぐきと頬(ほほ)の間には、食べかすが残りやすいので注意が必要です。

★歯ブラシに慣れさせる時期です。歯ブラシで遊ばせることが必要です。

★歯が萌出したら歯ブラシを使っての歯磨きを始めましょう。

乳児期

9～11ヶ月

すりつぶし機能獲得期



上下前歯が萌出し、奥歯も萌出しはじめます。

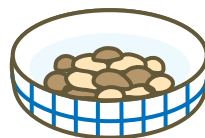
だ液と混ぜ合わせていく咀嚼(そしゃく)運動の始まりです。取り込んだ食べ物は舌で左右どちらかの歯ぐきの上に移動させ、歯ぐきでかんで食べるようになります。

かみかみ



注意

柔らかすぎると丸呑みしてしまうことにもなりかねません。



つまんでみて、少し力を入れるとつぶれるくらいの硬さ(熟したバナナくらいが目安です)にします。手づかみしやすい形にすることも大切です。

乳前歯萌出時期



歯ブラシの感覚に慣れてきたら、食べたら磨く習慣をつけてください。(仕上げ磨きも忘れずに)



注意

じょうしんしょうたい 上唇小帯(上の唇の裏側の筋)に歯ブラシが当たると、痛くていやがるので、人差し指などで小帯を押さえ、歯ブラシが当たらないように磨きましょう。

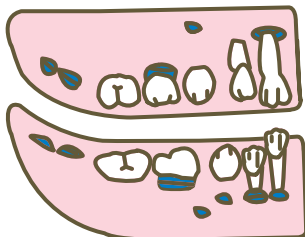
詳しくは8ページを見て下さい。

歯ができている様子

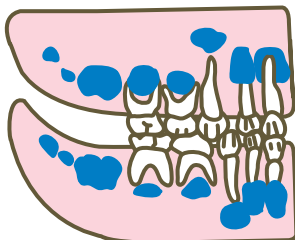
○白…乳歯

●青…永久歯

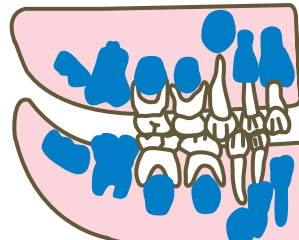
9カ月(±2カ月)



3歳(±4カ月)



6歳(±9カ月)



幼児期

12ヶ月～
1歳6ヶ月

上下の奥歯の萌出時期



前歯が上下4本ずつ生えそろい、上下の奥歯も萌出てきます。

1歳4ヶ月ごろに奥歯が、1歳6ヶ月で犬歯が萌出します。

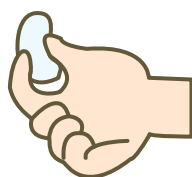
舌が自在に動くようになり、前歯でかじり取った食べ物をだ液と混ぜながら奥の歯ぐきに移動させてかみつぶします。



完了期の食べ方

この時期の食べ物は、少し大きめにして手づかみで食べる機会を多くしましょう。

自分の手で食べ物をつかみ、口に入れることで一度に処理できる量を自分で確かめています。



カミカミ期の続きと考え、つまんで力を入れるとつぶれるくらいの硬さから始めます。

肉だんご・かたゆで卵の白身の固さ、野菜などは大人より少しやわらかめ。



食事、睡眠、運動などの生活リズムをつくり、間食や甘味飲料の摂りすぎ、就寝前の飲食が習慣にならないようにすることが大切です。イオン飲料、スポーツ飲料にも糖分が含まれています。

また、酸性の飲料(イオン飲料・スポーツ飲料・ジュース・乳酸菌飲料)により歯が溶かされる酸蝕症(さんしょくしょう)が増えています。身体に良いというイメージでの頻回摂取及び哺乳瓶での摂取には、特に注意が必要です。

仕上げ磨きの注意

まず自分で磨かせて、その後お母さんがヒザの上に乗せながら仕上げ磨きをしてあげてください。

- ① 子ども用と仕上げ用の歯ブラシを2本用意しましょう
- ② 力の入れすぎや大きく動かさないようにしましょう
- ③ 上唇小帯に注意しましょう
- ④ 仕上げ磨きができたらほめてあげましょう



幼児期

1歳6ヶ月～3歳



2歳半くらいから奥歯が生えそろう、20本が萌出。顔貌も変化してきます。

手づかみ食べからスプーンなどの食具を使って自分で食べる機能の獲得期です。自主的に食べることを養いながら、前歯で1口量を噛み切り口唇を使って取り込み、しっかり咀嚼(そしゃく)できるように練習します。

食事の楽しさを覚える時期です。できるだけ家族と一緒に食べられるようにしましょう。テレビは消して、会話のある楽しい雰囲気をつくってあげましょう。



① 歯と歯の間



② 歯肉との境



③ 奥歯の溝



上の前歯の①歯と歯の間や②歯肉との境、③奥歯の溝にむし歯が発症しやすくなります。1歳過ぎてからの夜間の哺乳習慣をやめ、食生活の規律、甘味食品のコントロールが大切です。

また歯磨きは生活習慣・食習慣の確立面からも重要です。食べた磨く習慣を身につけましょう。

寝る前の仕上げ磨きは大切です!夜間はだ液の量も減りむし歯になりやすい時間帯です。お口の中がきれいな状態で寝ましょう。



3歳～6歳

乳歯列の安定期



乳歯が20本生えそろう、かみ合わせが安定します。

乳歯列の完成により摂食機能の習得期です。

◎食べ方に問題がある場合は、

- ① 口唇や前歯を使った食べ方の練習
- ② 1日の食事の量の調整
- ③ 奥歯での噛む練習
- ④ 口を閉じての飲み込みを繰り返し練習しましょう



6歳ごろには初めての永久歯である6歳臼歯が萌出します。咀嚼するために最も力を発揮する歯であり、一生使う大切な歯です。

乳児期後半になるとフッ素入り歯磨剤の使用や通園のサイクルを利用して歯磨きの習慣づけをしましょう。

自分で色々できるようになってきます。しかし子どもだけの歯磨きでは汚れをとりきる事ができません。仕上げ磨きを忘れずにしてあげましょう。

永久歯の萌出完了(小学校卒業)するまでは、仕上げ磨きや磨き残しが無いかの点検をしてください。

家族の喫煙、非喫煙で子どもの歯ぐきはこんなに違います!!

タバコ(副流煙)の影響でメラニン色素が沈着し、歯肉が赤黒く着色しています。

家族に喫煙者あり



家族に喫煙者なし



同じ年の子どものお口です。家族に喫煙者のいない子どもの歯肉は、ピンク色でツヤがあります。



また「外で吸えば大丈夫」だと考えがちですが、吸った後も洋服や息から煙粒子(有害物質)が数時間発生し続けます。この事を考えると子どものためにも禁煙が必要です。

乳歯列のかみ合わせに影響する習癖(クセ)について

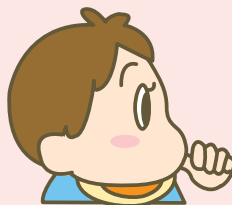
- 1 指しゃぶり
- 2 おしゃぶり
- 3 舌をかむ
- 4 口唇をかむ
- 5 爪や布をかむ

この習癖の程度が3歳を過ぎても長期続く場合、あごの成長、歯列不正、口唇を閉にくくなるなどの原因になります。

指しゃぶり



興味を遊びに向かせるなどしましょう

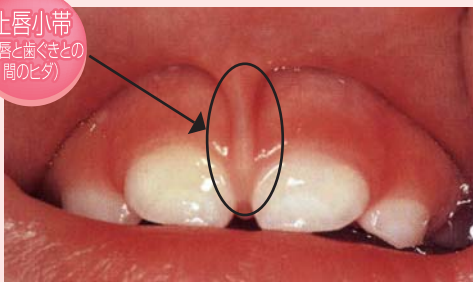


※お母さんの添い寝、本の読み聞かせなども効果があります。

じょうしんしょうたい

上唇小帯の付着異常

上唇小帯
(上唇と歯ぐきの間のヒタ)

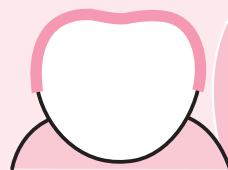


じょうしんしょうたい

上唇小帯(上の唇の裏側の筋)が、上あごまで伸び過ぎている場合、歯垢がたまりやすいので、むし歯になったり歯と歯の間が大きく開いて、見た目や歯並びに影響する場合があります。

どうしてむし菌や 歯肉炎になるの？

歯の質(硬さなど)は人によって異なります。
フッ素によって歯の質を強くすることができます。



歯の質



むし菌予防における間食について

食べ物(糖質)

小学校入学までは、心身の発育が盛んな時期で、十分な栄養補給が必要となります。食事だけでは十分な栄養補給が難しく、おやつ(間食)が必要となります。

おやつ(間食)=甘い物ではありません。

タンパク質・カルシウム・ビタミン類などの補給に役立つものが望まれます。

特に甘い物(糖質)はむし菌の栄養となります。とりすぎに注意しましょう。

こんなにお砂糖入っています!



スポーツドリンク
350ml
3本分 (15g)

乳酸菌飲料1びん
65ml
2.4本分 (12g)

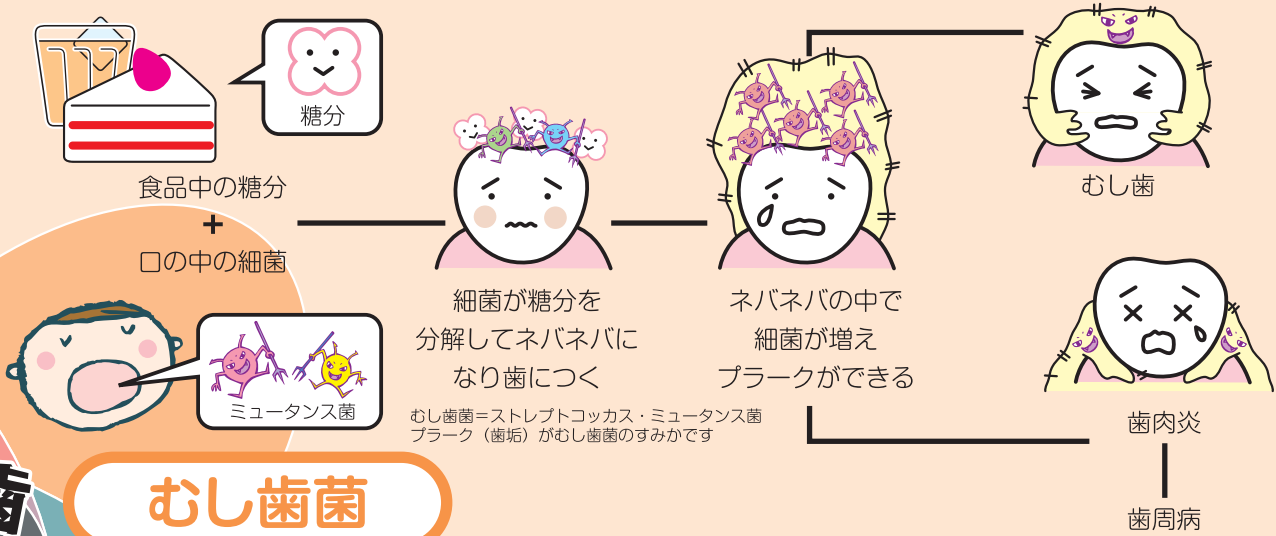
プリン・ゼリー各1個
4本分 (20g)

ヨーグルト(加糖)
90g
1.6本分 (8g)

炭酸飲料
350ml
7.5本分 (38g)

あめ
2粒
1.6本分 (8g)

むし歯と歯肉炎のメカニズム



むし歯菌

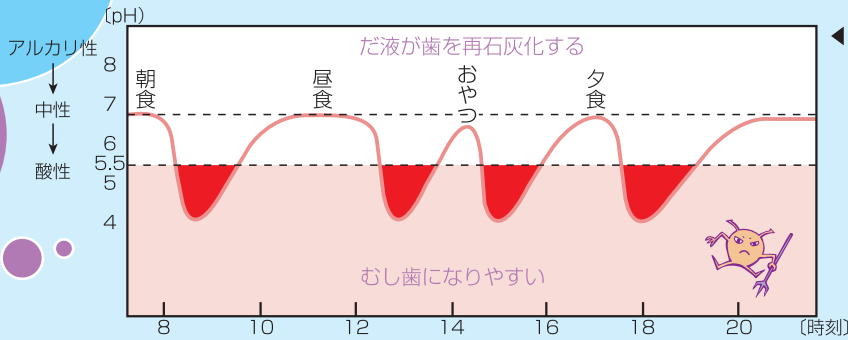
時間

食事は規則正しく決まった時間に

お菓子などをちょこちょこ食べていると口の中が常に酸性になって、むし歯になりやすくなります。間食は控えて、だ液が歯を再石灰化する時間を確保しましょう。



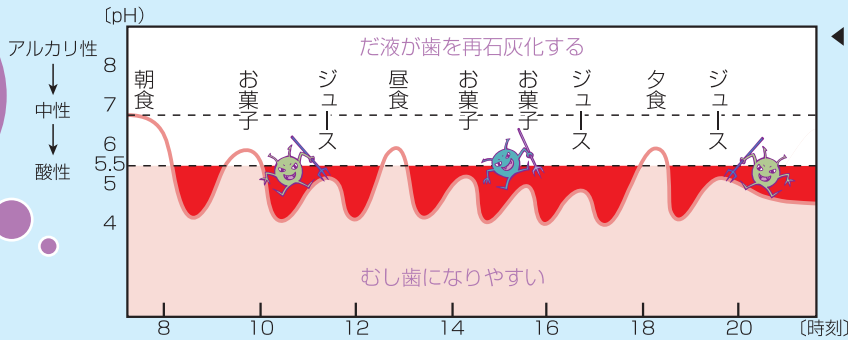
規則正しく食事をすると...



だ液が歯を再石灰化する時間が確保されています。



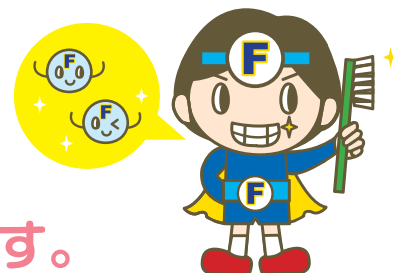
お菓子などをちょこちょこ食べていると...



だ液が歯を再石灰化する時間がとれないので、むし歯になりやすくなります。



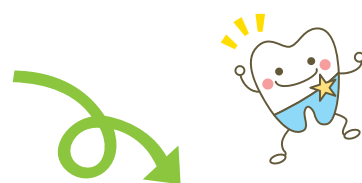
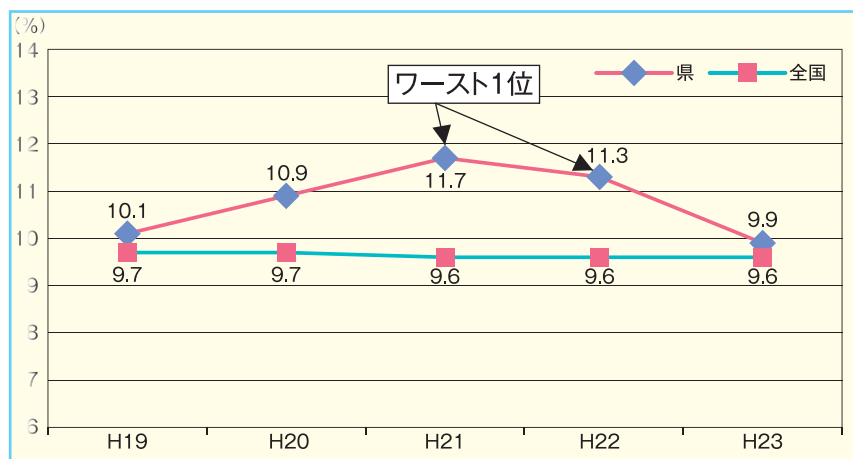
お母さんの歯ぐきの健康と 低出生体重児出産



今、体重が少なく生まれる
赤ちゃん（低出生体重児）が増えています。

低出生体重児（低体重児）とは、生まれたときの体重が2,500g未満の赤ちゃんのことをいいます。近年、出生体重低下により発症の危険性が高まる病気が分かってきました。低体重児で生まれたお子さんは、成人期に心疾患や糖尿病、高血圧、メタボリック症候群、脳梗塞などを発症しやすいとされています。

低出生体重児の出生率状況



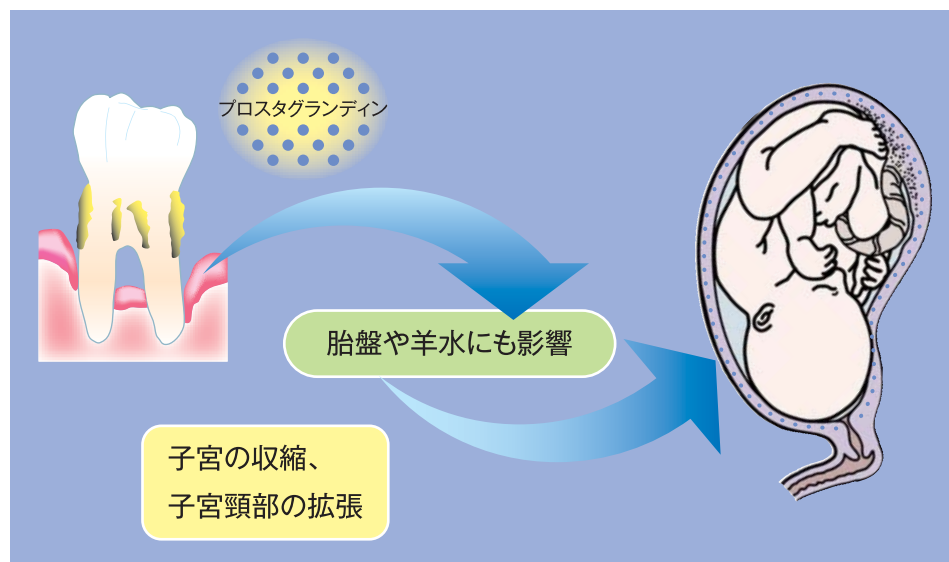
山梨県は全国に比べて
非常に高い!

原因としては、妊娠高血圧症候群、喫煙、薬物、ストレス、遺伝因子、細菌性腔症等とともに歯周病（早産のリスク7倍）もあげられています。

歯周病と早産・低出生体重児出産の関係

一般に妊娠すると歯肉炎（初期の歯周病）にかかりやすくなります。女性ホルモンが歯周病菌の増殖を促すことや、つわりなどで妊婦さん自身の歯の手入れがおろそかになることなどが原因です。

歯周病が進行すると、プロスタグランジンという子宮を収縮させ出産を促す物質が大量に放出されます。



その物質の影響を受けてまだ出産には早い時期なのに出生のゴールサインが出てしまったり、胎盤の早期剥離を起こしてしまったりします。

低出生体重児の多くは、早産で生まれたお子さんです。

妊産婦さんはもちろんのこと、妊娠を予定されているお母さんは是非、歯周病の予防を心がけて下さい。